
生徒会の新入り？

?紫苑?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生徒会の新入り？

【Nコード】

N7349Y

【作者名】

？紫苑？

【あらすじ】

タイトルは後で変更のかもしれない

生徒会にもう一人の男子がいた

そいつはあの子の双子の兄！？

存在しえないプロローグ(前書き)

初めまして？

または、こんにちは？

存在しえないプロローグ

ルール1 神の存在を受け入れる

ルール2 彼らに直接触れてはいけない

ルール3 友達の友達是我ら、それが干渉限界

ルール4 《企業》の意向は何よりも優先される

ルール5 《スタッフ》は、個人の思想を持ち込むな

ルール6 情報の漏洩は最大にして、最悪の禁忌である

ルール7 我らが騙すのはヒトではなく神であることを忘れてはならない

ルール8 このプロジェクトに道徳心は必要ない。すべては利益の為に

ルール9 性質上《学園》の《保守》は最大の命題である

追加ルール 今年の生徒会には気をつける

特にヤツに手を出してはならない

はあゝ 今日も駄弁るだけかあゝ(前書き)

> (—) <

はあゝ 今日も駄弁るだけかあゝ

「世の中がつまらないんじゃないの。
貴方がつまらない人間になったのよっ！」

会長がいつものように小さな胸を張って何かの本の
受け売りを偉そうに語っていた。

僕がスルーする中、鍵はなぜか感銘を受けていた

「じゃ、童貞もそんなに悪くないってことですか？」

「ぶっ！」

鍵はやっぱり鍵だった・・・

「今の私の言葉から、どうしてそんな返しが来るわけ？」

それは僕も同感だ

「甘いですね会長。俺の思考回路は基本、まずは
そっち方面に直結します！」

まあ鍵だからね

「何を誇らしげに！ 杉崎はもうちょっと副会長としての
自覚をねえ・・・」

「ありますよ。自覚。この生徒会は俺のハーレムだという
自覚なら十分」

・・・

「ねえ 鍵？ 僕も生徒会の一員だっことをお忘れなく。」

「っ！ (ゾワッ) あっあぁ もちろん忘れてないよ」

「ふうん。じゃあ僕もハーレムの一員だっことを？」

「ちっ違っよ」

「まさか 鍵がホモだったとは・・・
ひくわー」

「違っぞ！？ 誤解すんな！ ソラ！」

「じょーだん じょーだん。 だってそういう人なら
友達になってないもん」

「(ビクッ) そっそうか。 よかった」

ふう 鍵には困ったもんだ

皆来るの遅いな

あの2人の会話に入りたくないし 暇だ！

ガラガラ

「キーくん。あんまりアカちゃんイジめちゃだめよ
後、カイくん スルーじゃなくて助けてあげなさい？」

そっついながら、会長と同じ3年の書記である女性
知弦先輩が入ってきた。

ちなみにカイくんとは、僕のこと。

僕の名前は『夜空』だから空を取って英語に変換してスカイ
スカイからスをとって カイくん

「スルーっていうか関わりたくないの、聞いてませんでした。」

「にゃわ！ ううゝ 知弦ゝ水無瀬がいじめるようゝ」

「よしよし カイくん気持ちは分かるけど
遠まわしに言っようにしなさい」

「えっ！？ 知弦！？ 気持ちわかるの！？？」

「・・・(^ | ^)」

知弦先輩が慈愛に満ちた目で会長を見つめる

はあゝ 今日も駄弁るだけかあゝ（後書き）

どうでしたか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7349y/>

生徒会の新入り？

2011年11月22日01時58分発行